

JANPU看護学士課程教育の質を高めるカリキュラム開発に関する研修会

看護学士課程におけるコアコンピテンシーと 卒業時到達目標（案） ーカリキュラム編成への活用についてー

平成29年12月25日（月）

一般社団法人日本看護系大学協議会
看護学教育評価検討委員会委員長 小山真理子

概 要

1. 検討の経緯
2. 平成22年度の看護実践能力との比較
3. コアコンピテンシーに基づく看護学士課程の構造
4. 看護学士課程におけるコアコンピテンシーと
卒業時到達目標と教育内容(例)
5. カリキュラム編成への活用について
6. おわりに

看護学士課程：基本的考え方～前提～

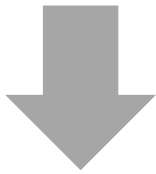
報告書p2

- 1) 保健師・助産師・看護師に共通した看護学の基礎を教授する課程であること
- 2) 看護生涯学習の出発点となる基礎能力を培う課程であること
- 3) 創造的に開発しながら行う看護実践を学ぶ課程であること
- 4) 人間関係形成過程を伴う体験学習が中核となる課程であること
- 5) 教養教育が基盤に位置づけられた課程であること

検討の経緯

- ・平成22年度：看護系大学におけるモデル・コア・カリキュラム導入に関する調査研究（代表：野嶋佐由美）

学士課程においてコアとなる看護実践能力：5群20の看護実践能力、
卒業時到達目標、教育内容（例）→ 平成23年3月 報告書



社会の変化：医療提供体制の変化（病院から地域へ）
看護職への期待の変化、科学技術の発達 他

- ・平成28年度～29年度：JANPU看護学教育評価検討委員会

看護学士課程における看護実践能力及び教育のあり方の再検討

看護学士課程におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標（案）

6群25のコアコンピテンシー、卒業時到達目標、教育内容（例）

コアコンピテンシーに基づく看護学士課程の構造の図示

用語の使い方について 報告書p3

平成22年度報告書「**コアとなる看護実践能力**」



グローバル化が進み、コンピテンシーという用語がよく用いられるようになった



本報告では「**コアコンピテンシー**」をH22報告書の「**コアとなる看護実践能力**」と同義語として用いることとした

平成22年度看護実践能力と平成29年度コアコンピテンシー の比較

報告書p4

平成
22
年度

- I 群 ヒューマンケアの基本に関する実践能力
- II 群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力
- III 群 特定の健康課題に対応する実践能力
- IV 群 ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力
- V 群 専門職者として研鑽し続ける基本能力

5群20の看護
実践能力



平成
29
年度

- I 群 全人的に対象を捉える基本能力
- I 群 ヒューマンケアの基本に関する実践能力
- II 群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力
- III 群 特定の健康課題に対応する実践能力
- IV 群 ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力
- V 群 専門職者として研鑽し続ける基本能力

6群25のコアコ
ンピテンシー

平成29年度報告書(案)において 追加したコアコンピテンシー

報告書p4

I 群 全人的に対象を捉える基本能力

1. 看護の対象となる人と健康を包括的に理解する基本能力
2. 生物学的存在としての人間について理解しアセスメントに活かす基本能力
3. 生活体としての人間について理解しアセスメントに活かす基本能力
4. 人間を取り巻く環境について理解しアセスメントに活かす基本能力

IV群 特定の健康課題に対応する実践能力

18. 在宅療養者と家族を支援する能力

コアコンピテンシーに基づく 看護学士課程の構造

報告書p11 (図1)

VI群 専門職として研鑽し続ける基本能力

- 24.生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力
25.看護専門職としての価値と専門性を発展させる能力

1.看護の対象となる
人と健康を包括的
に理解する基本能力

2.生物学的存在
としての人間に
ついて理解し
アセスメントに
活かす基本能力

3.生活体としての
人間について
理解しアッセ
メントに活かす
基本能力

4.人間を取り巻く環境に
ついて理解しアッセ
メントに活かす基本能力

V群 ケア環境とチーム体制に関する実践能力

- 19.保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善する能力
20.地域ケアの構築と看護機能の充実を図る能力
21.安全なケア環境を提供する能力
22.保健医療福祉チームの一員として協働し連携する能力
23.社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力

IV群 特定の健康課題に対応する実践能力

- 14.健康の保持増進と疾病を予防する能力
15.急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力
16.慢性・非可逆的健康問題を有する人々を援助する能力
17.エンドオブライフ期にある人々を援助する能力
18.在宅療養者と家族を支援する能力

III群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力

- 8.根拠に基づいた看護を提供する能力
9.計画的に看護を実践する能力
10.健康レベルを成長発達に応じてアセスメントする能力
11.個人と家族の生活をアセスメントする能力
12.地域の特性と健康課題をアセスメントする能力
13.看護援助技術を適切に実施する能力

II群 ヒューマンケアの基本に関する実践能力

- 5.看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力
6.実施する看護について説明し同意を得る能力
7.援助的関係を形成する能力

I群 全人的に対象を捉える基本能力

講義・演習（シミュレーション教育を含む）

実習と講義・演習の
相互フィードバックに
よる実践能力の発展

実
習

看護学としての統合

学びの統合

専門職としての統合

卒業時の到達目標

図1 コアコンピテンシーに基づく看護学士課程教育の構造

看護学士課程におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標、教育内容(例) (資料1)

資料1の説明文は報告書 pp 13～44

カリキュラム編成への活用について (1)

コアコンピテンシーに基づく
看護学士課程の構造

報告書p11 (図1)

実習

実習と講義・演習の
相互フィードバックに
よる実践能力の発展

V群 ケア環境とチーム体制に関する実践能力

- 19.保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善する能力
- 20.地域ケアの構築と看護機能の充実を図る能力
- 21.安全なケア環境を提供する能力
- 22.保健医療福祉チームの一員として協働し連携する能力
- 23.社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力

IV群 特定の健康課題に対応する実践能力

- 14.健康の保持増進と疾病を予防する能力
- 15.急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力
- 16.慢性・非可逆的健康問題を有する人々を援助する能力
- 17.エンドオブライフ期にある人々を援助する能力
- 18.在宅療養者と家族を支援する能力

III群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力

- 8.根拠に基づいた看護を提供する能力
- 9.計画的に看護を実践する能力
- 10.健康レベルを成長発達に応じてアセスメントする能力
- 11.個人と家族の生活をアセスメントする能力
- 12.地域の特性と健康課題をアセスメントする能力
- 13.看護援助技術を適切に実施する能力

II群 ヒューマンケアの基本に関する実践能力

- 5.看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力
- 6.実施する看護について説明し同意を得る能力
- 7.援助的関係を形成する能力

I群 全人的に対象を捉える基本能力

- 1.看護の対象となる
人と健康を包括的
に理解する基本能力

- 2.生物学的存在
としての人間に
ついて理解し
アセスメントに
活かす基本能力

- 3.生活体としての
人間について
理解しアセスマ
ントに活かす
基本能力

- 4.人間を取り巻く環境に
ついて理解しアセスマ
ントに活かす基本能力

講義・演習（シミュレーション教育を含む）

学
士
力

図1 コアコンピテンシーに基づく看護学士課程教育の構造

カリキュラム編成への活用について (2)

コアコンピテンシーに基づく実習

報告書p12 (図2)

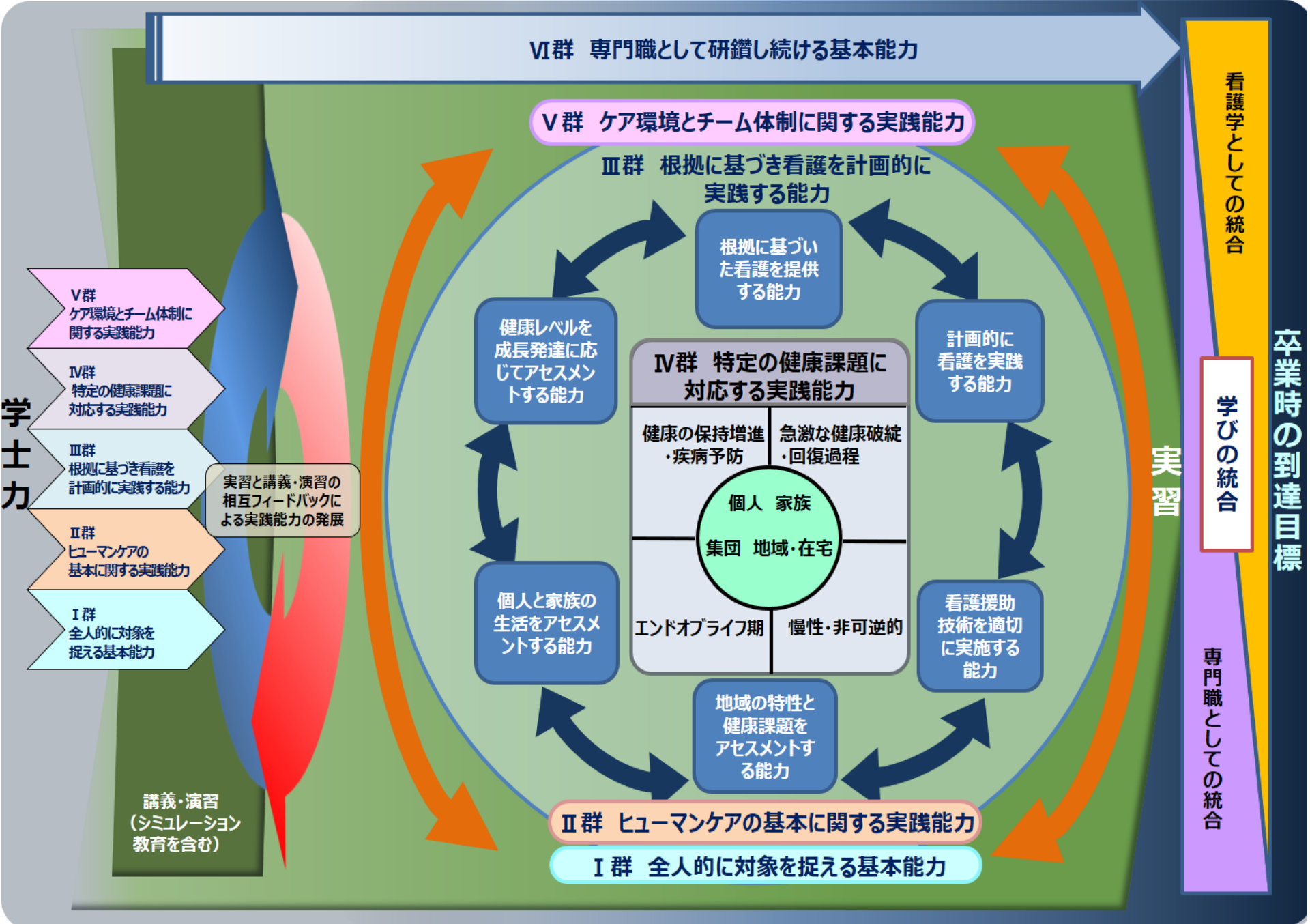


図2 コアコンピテンシーに基づく実習

おわりに

1. 各大学が大学の特徴を活かして、看護学教育の発展、充実に向けて、各大学のカリキュラム作成に「看護学士課程におけるコアコンピテンシーと卒業時の到達目標（案）」をご活用いただければ幸いです
2. 報告書（案）についての意見聴取へのご協力のお願い
大学単位でまとめてメールで office@janpu.or.jp
提出期限 平成30年1月8日（月・祝）
3. 平成30年3月24日 最終報告書による報告 予定